

もの言う牧師のエッセー 第175話

「バカ外人」

昨年に打率338で首位打者だった阪神のマット・マートン外野手が、球団史上外国人最高額となる4億5000万で今季契約を結んだ。来日した2010年、彼はいきなりシーズン214安打を叩きだし、イチローが持っていた210安打の記録を塗り替えた。昨年には日米通算1000安打達成、2年連続4度目のベストナイン、そして今季は助っ人外国人野手として6年目を向かえ、60年代のカーランド、そして80年代の“神様”バースとも並び、「今年は絶対優勝したい！」と気合溢れる彼を見て、思わず2年前の“退場騒動”を思い出した。

2013年8月末の広島戦で、球審の判定を不服とし鬼のような形相で執拗に抗議、来日初の退場処分となった一件である。元々彼はとことん理詰めで納得しないと受け入れられないところがあり、イライラを募らせ打率を落とし、報道陣とギクシャクしたり、注意したコーチともめたりしたこともあったほど。しかしあの日の翌日の広島戦で彼は見事に決勝2ランを放ち、お立ち台にあがった時、「すみません、バカガイジンです！」さらに「きのうはゴメンナサイ」とファンに謝罪し、自らを貶めることで速やかに“騒動”を収束させ関係者を唸らせたのだった。 聖書に

「みな互いに謙遜を身に着けなさい。神は高ぶる者に敵対し、

へりくだる者に恵みを与えられるからです。」1ペテロの手紙5章5節、

とある通りである。彼に限らずクリスチャンは総じて妙に正義感が強く、「オレは間違っていない」と我を通す人が多い。何のことはない私もそうだ。しかしなすべきは争いではなく和であって、建設的に互いを支え合うことだ。何も間違っていないキリストが汚名をかぶり十字架にかかったのを手本としているのだから、神を信じる者ならばまずマートンのようにへりくだり、やがて祝福を得たい。

2015-3-19

